

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	西脇市立重春小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	4	4	4	3	3	3	2	23	29
児童数	125	124	126	111	112	116	4	718	

研究の概要

1. 研究主題

「生きる力を育む」 - 個に応じた指導法の工夫と評価の在り方 -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

第6学年：教科担任制，算数科における少人数授業

- ・国語・社会・理科・家庭・図工・音楽の6教科を教科担任制とした。
- ・算数科は、1学級を2学習集団に分割し実施する。
- ・第6学年で教科担任制を導入することによって、小学校の学級担任制から中学校の教科担任制への円滑な接続を図る。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ「生きる力を育む」 - 子どもの意欲を引き出す学習指導の工夫 -</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の特色を生かした学習指導が、わかる学習に結びつき、学ぶ意欲が高まる。 ・きめ細かな学習指導や発展的な学習を取り入れた指導により、各自が能力を向上させ、学ぶ意欲が高まる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数、理科、社会において教科担任制を実施し、児童の学習意欲を高める学習方法を開発する。 ・算数科は、加配教員を中心に学級担任も加わり少人数指導を実施、きめ細かな指導によって学習意欲を高める。
--------	---

平成15年度	<p>テーマ「生きる力を育む」 - 個に応じた指導法の工夫と評価の在り方 -</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の特色を生かした学習指導が、わかる学習に結びつき、学ぶ意欲がたかまる。 ・きめ細かな学習指導や発展的な学習を取り入れた指導により、各自が能力を向上させ学ぶ意欲が高まる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、社会、理科、図工、家庭、音楽において、教科担任制を実施した。 ・算数科においては、加配教員と担任とで少人数授業を実施し、きめ細かな指導を行うことによって、学力の向上を図る。
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ「生きる力を育む」 - 個に応じた指導法の工夫と評価の在り方 -</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の特色を生かした学習指導が、わかる学習に結びつき、学ぶ意欲が高まる。 ・きめ細かな学習指導や発展的な学習を取り入れた指導により、各自が能力を向上させ、学ぶ意欲が高まる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、社会、理科において教科担任制を実施し、児童の学習意欲を高める。 ・算数科においては、学級担任と加配教員による、少人数授業を行い、きめ細かな指導を行うことによって学力の向上を図る。
----------------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習システム推進研究委員会（構成員 8名） （構成メンバー校長、教頭、推進教員 2名、学年代表 4名） ・ 主な活動 基礎学力の向上を図る学習方法、内容、計画の策定と提案、推進。 推進課程における諸調査の実施、集計分析により推進効果の発見。 推進課題の解決策と実践。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・算数科においては、学習の中でレディネステストや児童の自己評価を活用するとともに、振り返りチェックテストを実施しながら、自己選択による学級課題選択学習（2コース設定）や、学年課題選択（4コース設定）を開設し、個に応じた指導を実施した。その結果、個々の児童の理解の程度に応じた指導が容易になるとともに、基礎・基本を重視した指導が図れ、児童の学習意欲向上につながった。 ・評価の面では、学習カードや学習シート、自己評価カード等を活用し、ポートフォリオにして保存するとともに、学習活動中の発表、つぶやきなど観察を基にした評価も取り入れた。また、自主的な課題追求や、課外の学習も評価する試みを行なった。 ・こうした結果、85%の児童が教科担任制を好意的に受け入れており、68%の児童が、教科担任制により、好きな教科が増えたと回答している。 ・一人分の担当教科が少なくなることで、指導方法や評価について深い教材研究ができる。 ・多くの教師の指導に触れることで、児童を多面的に理解することができるとともに、多くの教師に見てもらえているという安心感を生み出した。
--

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制を経験した児童の追跡調査により、教科担任制の成果を確認するとともに、中学校との連携を図る方策を探る。 ・教師個々の得意分野と担当教科が一致するような配置をめざす。 ・児童についての情報の共有化を図るため、さらに、記録の累積の在り方、情報交換の仕方を工夫する。 ・指導に生かす評価の在り方を研究する。
--

学力等把握のための学校としての取組

- ・児童の学力把握のための評価や保護者へのアンケート調査の実施。
- ・個人カルテの作成
- ・自己評価テストの実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・参観日において、保護者への新学習システムの授業公開するとともに、学校だより、学年だより等による、保護者地域への啓蒙。
- ・西脇市中堅教員研修会において、本校の教科担任制や少人数授業の実践について発表する。
- ・北播磨地区学力向上推進研修会で、「教科担任制の導入と少人数授業などのきめ細かな指導の推進」について実践発表を行う。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校	1 4 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下 1 3 ~ 1 8 学級 2 5 学級以上	7 ~ 1 2 学級 1 9 ~ 2 4 学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T . T による指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	